

モデル校における English Time 授業案

学校名： 鈴鹿市立合川小学校

実施学年	第5学年
単元名	日本語を使わないコミュニケーションに挑戦しよう。

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を使わずにALTや友だちと積極的にコミュニケーションを図ることができる。 ・相手の話をしっかりと聞き、自分の考えをわかりやすく伝えることができる。
準備物	レゴブロック、日本円セット

< 本時の流れ >

学習活動	教師の支援・留意点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>< めあて ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を使わずに英語での注文通りに寿司を出そう。 ・ジェスチャーや表情を交えて積極的にコミュニケーションを試みよう。 </div>	
<p>【Activity】 「寿司屋を開店しよう」</p> <p>① ネタの英単語を知る。 Tuna Salmon Cuttlefish Egg Salmon roe 等</p> <p>② 挨拶・注文・会計で使用する英語の表現を練習する。</p> <p>A: May I help you? ALT: Tuna 2, Salmon 1, Egg 1, Solmonroe2 等 A: Yes. A: Here you are. ALT: Thank you. How much? A: It's ○○ yen. ALT: Thank you. A: You're welcome.</p>	<p>○ 正しく発音するように指導する。</p> <p>○ Activityの説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに寿司屋を開店する。 ・注文を聞いたら暗記して、班で相談しながらレゴで寿司を作る。 ・班で話すときは日本語を使わず英語かジェスチャーで会話する。 ・会計をする。

<p>③ ALT にお客さんになってもらい班ごとに寿司屋を開店する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代金は自分たちで決める。 ・おつりが必要なときは日本円セットから必要な金額を持っていく。 <p>④ ふりかえりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALT は一度に何品か注文する。 ・ 注文が間違っていたら再度伝える。 <p>○ 表情やジェスチャーを入れて会話ができるように指導する。</p> <p>○ 活動がうまく行なえていない班があれば支援する。</p> <p>○ ネタの単語がわからないときはジェスチャーでヒントを与える。</p> <p>児童を指名する。単なる感想にならないように留意する。</p>
--	---

<まとめ>

- ・ 伝わらないときは表情やジェスチャーを交えたり、わからないときは聞き返したりして、注文通りに寿司を出すことができた。
- ・ 注文を聞いたり班の友だちと相談したりするなど、自分から積極的にコミュニケーションを行うことができた。

<成果と課題>

(成果)

- ・ 注文を聞いてその場で寿司を作るという設定が子どもたちの興味を高め、活動が主体的になった。
- ・ 複数の注文を受け、それを暗記してお客に出すという内容が、子どもたちのチャレンジ精神を刺激するのにちょうどいい難易度であった。
- ・ 日本語が話せない外国人のお客という設定であったので、子どもたちは発音に気をつけながら話していた。
- ・ 班で役割分担をする時や、お客が注文したネタがわからない時は、ジェスチャーを交えて上手にコミュニケーションをとっていた。

(課題)

- ・ 寿司を作るときにレゴが足りなくなり、思ったように作れないグループがあった。
- ・ 1グループ4人では人数が多く、全員がお客と十分にコミュニケーションが取れなかった。